

私たちの暮らしには海を支える力があります

自分たちにできること チェックリストを作ってみよう

- [] まちのごみを拾う
- [] 水を汚さない工夫をする
- [] 地球温暖化を防ぐアクション(節電など)
- [] _____
- [] _____
- [] _____



子どもたちの「旅の記録」

沖縄県では、かつてリュウキュウアユが生息していた源河川を訪れ、生きものを観察。リュウキュウアユについての講義などを聞いた。サンゴ礁の海も観察し、実際に海の美しさを体験した。また、川と海のつながりについて学んだことや体験したことを表現する琉歌に挑戦した。

人の暮らしのすぐそばにある海も見学。子どもたちは、海の美しさとその一方で抱える海の問題を体験を通して学んだ。

岐阜県では、「リュウキュウアユ」と「長良川の鮎」の大きな違いのひとつである「食」をポイントに、郡上市の清流長良川あゆパークで、体験学習。

鮎のつかみ取りや串打ち体験を行い、世界農業遺産「清流長良川の鮎」について学んだ。

岐阜の子どもたちは、ひるがの分水嶺公園にも足を運び、水の源となる山や森のはたらきについても学習。ふるさとの魅力を再認識する機会となった。



制作：一般社団法人 海と日本プロジェクト岐阜 協力：世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会



海のない岐阜から海へ贈る

アユが教えてくれた命のバトン



長良川の鮎



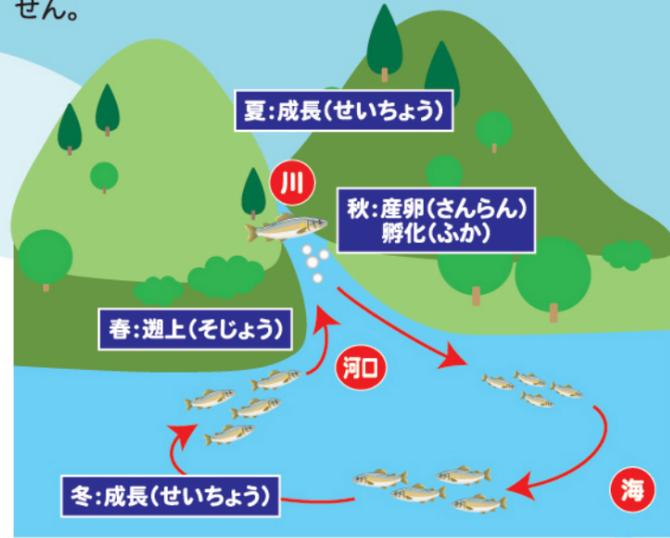
山に降った雨が、川になり、里をうるおし、やがて海へ
1,000km以上はなれた岐阜と沖縄、二つの場所を結ぶ物語



川と海はひとつにつながっている。岐阜と沖縄の自然をたずねて

1年で一生を終えるアユ

アユは海と川を行き来する回遊魚です。春に川をのぼり、夏に大きく育ち、秋に卵を産んで一生を終えます。そして冬の間、赤ちゃんは海で次の春を待ちます。山・川・海。どれかひとつでも欠けたら、アユは生きていきません。



岐阜と沖縄の川くらべ

沖縄の川は長さが5km～10km程度の小さな川が多く、一番長い川でも15kmほどです。

- ・長良川(ながらがわ)岐阜県で最大級:約166km
 - ・比謝川(ひじゃがわ)沖縄県で一番長い:約15.9km
 - ・源河川(げんかがわ)今回活動した川:約13.5km
- 令和7年4月1日現在



源河川(沖縄県名護市)

長良川
(ながらがわ)
約166km

広い流域で鮎が
大きく育つための
栄養をじっくりとたくわえる

源河川
(げんかがわ)
約13.5km

山の恵みを
ごく短時間で
海へ届ける

消えてしまった「リュウキュウアユ」

沖縄本島と奄美大島にのみ生息するアユで、日本本土産アユの亜種です。成魚の体長は10～20cmで、長良川のアユと比べ、やや小型です。

沖縄本島では1978年に採集されたのが最後の記録となり絶滅してしまいました。

川の上流で行われた開発で、木々が伐採され、むき出しになった地面から赤土などが流れ出しリュウキュウアユの生活場所が奪われてしまったそうです。



撮影:村田尚史



(上)上流の森の開発(1992～93年頃)
(左)赤土が流れ出す川(1992年)

引用 名護博物館編集
2013年発行
人と自然の共生する川づくり
～リュウキュウアユに学ぶ!～

世界農業遺産「清流長良川の鮎」

清流と鮎は、流域の食や伝統文化、歴史、経済と深く結びつき、こうした里川全体のシステム、「長良川システム」が世界に認められ、2015年に「清流長良川の鮎」として、世界農業遺産に認定されています。



岐阜の祭り



三ヶ島の鮎

沖縄県の子どもの声



アユとったぞー!



岐阜のアユはスィカの香りがするの?



海の魚と全然ちがう味おいしい!!

岐阜と沖縄の小学生が合同学習

「アユ」を通じて、岐阜県と沖縄県が交流する事業として岐阜県の子供たちが沖縄県を訪れる「沖縄編」と沖縄県の子供たちが岐阜県を訪れる「岐阜編」を実施した。子供たちは互いの地域を訪れ、アユをきっかけに川と海のつながりなどを学んだ。

岐阜県からは独自教科「わかあゆ学」でアユや長良川流域の文化の学習を行っている藍川北学園の児童が参加した。

- 【沖縄編】 8月19日(火)～8月21日(木)
沖縄県名護市、浦添市
- 【岐阜編】 9月14日(日)岐阜県郡上市



沖縄の海で起きている異変 ～サンゴの白化現象～



沖縄の海に広がるサンゴ礁は、世界でも有数の美しい海洋生態系として知られています。しかし今、サンゴは危機的な状況にあると考えられています。特に問題となっているのが海水温の上昇などによるサンゴの白化現象。サンゴにとっての適性海水温を大幅に上回る日が多くなり、大規模な白化が起こるようになってきました。このような状況が続くと、サンゴは栄養が足りなくなり、やがて死んでしまいます。

街や山から流れ出る「海のごみ」

海にあるごみの約8割は、街や山などの『陸地』で発生したものだと言われています。それらが雨や風によって川に集まり、海へと流れ出ているのです。



伊勢湾河口で見られたペットボトルなどのごみ
2025年10月撮影

